



春の訪れと再会を楽しむ

筑志会 第53回

当誌文芸欄に短歌や俳句などを投稿する仲間たちでつくる「筑志会」の第53回定例会が3月15日、筑西市の「ホテルニューつたや」で開かれました。参加した11人の会員の皆さんは、お互いの近況を報告しながら春を迎えた心境などを短歌や俳句にしました。

大木憲一郎会長は「風邪やインフルエンザにならないように過ごすには日頃の備えが大事。病気になるたら筑志会にも参加できなくなってしまう。健康を一番に考え、素晴らしい作品を作りましょう」とあいさつしました。会は恒例の「筑志会数え唄」でスタート。参加者は昨年末以来の再会に話が弾み楽しいひとときを過ごしました。

霞ヶ浦白くはらんだ帆洩き舟ワカサギ踊る恵みの湖よ

大木 里山

山百合の梅は散つてもなぜ出さぬ

深谷 征治

積ん読の本を手にする春日かな

山中 俊雄

地の神の温みいたたく露の臺

鈴木 勇

菜の花や一輪かれん鬼怒の土手

木城 鷹七

春麗齡に負けぬ元気良く

遠藤 司郎

曾孫の誕生日だよお目出度うすこやかに育ち元気澁刺と

中島 守男

筑波嶺の香り漂う梅まつり

中島 千恵

もう一周歩いてみるか梅の花

塚田 千栄子

春めくや一雨毎に畔の草

平出 佐和子

大空にほっこり浮かぶ綿雲は東風に押されてちりちり何処

小島 ヨリ子

雉子歩む野辺の暮らしに日を重ね

野口 きみ子

うす紅のむかし句はす梅の花古城の昼に人は安らふ

川味 飛仙

桐箆筒中を開けば母そはの母の織りたる縦縞の着物

大畑 よし子

椿咲きバスの買い物荷の多さ送る人情感謝するらん

百目鬼 文子